

2024.02.20 シニアクラブ Online 会合報告

2月というのに群馬県伊勢崎市では気温 25℃を超える夏日となったと報道されるような季節外れの温かい日となりました。このままいくと桜の開花もずいぶん早くなるかもしれません。

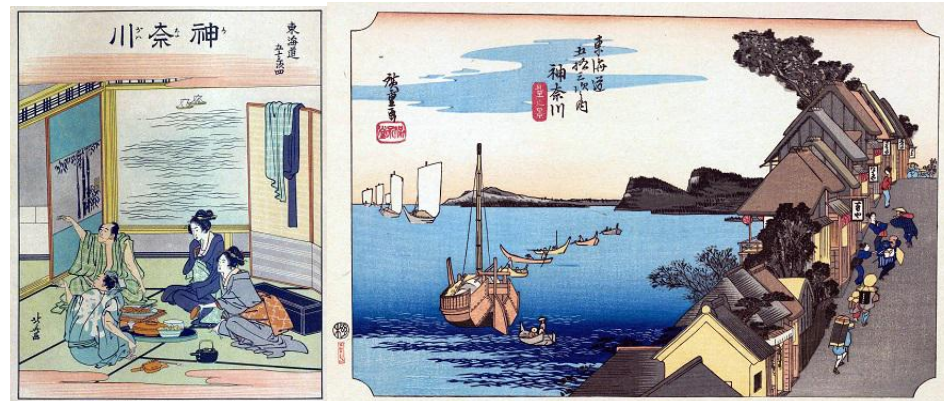


この会合にほぼ毎回参加している新潟県松之山温泉の島田女将から玄関先の積雪状況について中継がありました。例年なら1m以上の雪が積もっているはずなのにほとんど残っておらず、今冬は屋根の雪下ろしも1回行っただけとのこと。この地には1月に「婿投げ」という昔から伝わる祭りがあります。新婚の婿さんをお寺の境内から崖下の雪の斜面に放り投げる豪快な行事です。今年は無事開催できたようですが、その雪もドンドン溶けてきてしまったようです。

https://www.tokamachishikankou.jp/wp/wp-content/uploads/2023/10/Information-Application-Form_mukonage.pdf

このサイトは婿投げ行事への参加募集のパンフレットです。地元の婿さんだけでなく全国からの募集もしています。身近なところに参加希望者がいたらこれを紹介してください。来年もその時期には雪がいっぱいあることを期待しましょう。雪が少ないと投げられた婿さんは大けがをしまうかもしれません。

今回の本題では、北斎と広重の東海道を比較しながら眺めてみました。北斎の絵は広重よりも20年ほど前のものです。一例として右上に「神奈川宿」を並べていますが、皆さんの感想はいかがでしょう。



- ・広重の絵は写実的だが、北斎の絵はアニメ的な感じだ
- ・北斎の絵では各宿場の特徴が余り描かれずどこでも同じような感じ
- ・北斎の絵を見ても特に旅をしたいとそそられる気にならない
- ・描かれる人物の動きが静止画的で広重の方がダイナミックに感じる

今回の参加者からはこのような意見が述べられました。これは浮世絵が描かれた時代の違いが反映されているようです。北斎が描いたころは風景画は主流ではなく、主に役者絵とか美人画が好まれた時代であり、広重が描いた1830年代頃になって浮世絵のテーマに風景画が広がり各宿場の様子や景色などが描かれるようになりました。事実、北斎の有名な「富嶽三十六景」はこの時代になってから描かれています。街道ものの浮世絵はいくつも出版されているので、次のサイトから探し出してそれぞれご覧ください。

「浮世絵・錦絵などを見る」 https://www.benricho.org/Unchiku/Ukiyoe_NIshikie/

- ・江戸から20番目の宿「丸子」はとろろ汁が名物で描かれています。宮田さんから、自宅の庭でとれた曲がりくねった自然薯の紹介がありました。あわせて、真直ぐな自然薯の育て方の紹介もありました。
- ・2月11日に開催された「蕎麦打ちの会」で打ったそばを自宅でかき揚げと一緒に食べた、あるいはまた大根おろしで食べたなどおいしいそうな写真と共に報告がありました。この自然薯と一緒に食べればもっとおいしかったかも知れません。否、やっぱり自然薯はマグロのブリでやまかけだ！との話もありましたが・・・。
- ・最後に浅見さんの「雛祭りの歌♪」で終了。もうすぐ春ですね。